

第2章 平成30年中における自殺の概要

1 総数(表1関係)

平成30年中における自殺者の総数は20,840人で、前年に比べ481人(2.3%)減少した。
性別では、男性が14,290人で全体の68.6%を占めた。

2 年齢階級別自殺者数(表2関係)

「50歳代」が3,575人で全体の17.2%を占め、次いで「40歳代」(3,498人、16.8%)、「60歳代」(3,079人、14.8%)、「70歳代」(2,998人、14.4%)の順となっている。

3 職業別自殺者数(表3関係)

「無職者」が11,776人で全体の56.5%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」(6,447人、30.9%)、「自営業・家族従業者」(1,483人、7.1%)、「学生・生徒等」(812人、3.9%)の順となっており、この順位は前年と同じである。

4 原因・動機別自殺者数(表4関係)

原因・動機が明らかなもののうち、個々の要因別にみると、その原因・動機が「健康問題」にあるものが10,423人で最も多く、次いで「経済・生活問題」(3,432人)、「家庭問題」(3,147人)、「勤務問題」(2,018人)の順となっており、この順位は前年と同じである。

注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(15,551人)とは一致しない。